

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人かながわアドバンスサポート

② 施設・事業所情報

名称：認可保育所どうそのひろば	種別：保育所
代表者氏名：池田 愛美	定員（利用人数）：48（50）名
所在地：・本園 横浜市緑区長津田3-1-18 045-482-3655 ・分園 横浜市緑区長津田2-1-1 2階 045-509-1870	
	ホームページ： 1月中旬から
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成27年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：学校法人原田学園	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤 11名
専門職員	園長 1名 保育士 8名
	保育士 8名
	調理員 5名
	栄養士 1名
	事務 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 園庭 78平米
	調理室 2室 冷暖房付き

③ 理念・基本方針

認可保育所どうそのひろば

◆保育理念

”すべては子どもたちのために”を合言葉に、子ども一人ひとりを大切に、保護者からも信頼され 家庭的で地域に愛される保育所を目指す。

◆保育方針

遊びを中心とした保育・感性を育くむ保育を柱とし、生きる力の基礎を培う
また、「非認知能力」「主体的・対話的・深い学び」を重視します。

◆保育目標

- ・すすんでからだを丈夫にする子
- ・友だちとあそべるやさしい子
- ・ねばり強くがんばる子

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

「認可保育所どうぞのひろば」は、東急田園都市線及びJR横浜線長津田駅から徒歩1分～5分のところに本園と分園があります。分園は長津田駅から徒歩約1分のマークワンタワー2階フロアに生後6カ月から1歳児までを受け入れています。本園は長津田駅徒歩約5分の距離にある2階建て、グリーンの外観の園舎で2歳以上のこども37名を受け入れております。分園と本園と350Mしか離れておりません。本園の前身は横浜保育室「ベビーぽけっと長津田」で平成27年認可保育所へ移行しております。定員48名。正面通りの向こう側には杉山原公園、その隣に厚生総合病院がある、保育所としては恵まれた立地です。

・本園は敷地265.40平米、建物延べ232.54平米、園庭78.47平米、保育室4部屋、調理室などあり、分園は28階建てマンションの2階95.81平米、保育室、トイレなど設備しています。周辺には恩田川が流れ、保育所一帯は住宅地で、徒歩圏内には東向地公園や長津田柳下公園などが点在し、保育園帰りにお子さんと遊ぶこともできそうです。約4キロの距離には、牧場や動物園、遊具などがある複合施設もあります。定員48名、保育士は16名おります。

・運営法人は、学校法人原田学園<本部横浜市青葉区みたけ台 理事長岡崎順子>は昭和48年幼児教育を担う、みたけ台幼稚園を開園、6千人を超える子どもたちを育て、平成25年横浜保育室を、27年認可保育所どうぞのひろばへ移行、平成27年小規模保育のベビーぽけっと松風台、平成30年シャルール保育園を開設しております。

【園の特徴】

・前身が乳児専門の横浜保育室です。園の名称「どうぞのひろば」は認可保育所移行にあたり、人気絵本「どうぞのいす」の思いやりの気持ちに思いを寄せ、物語のように子どもたちが、後から来る人のために自分のもっているものを「どうぞ」といえる、そんな大人になってほしいという思いから、この名前を付けました。初めて会う大人（保育者以外のひとたち）に、確かな信頼が育つことが保育園の大切な役割と思い、お子様の成長を保護者とともに喜び合え、日々の暮らしの中で、子育ての経験と培ってきた保育技術を活かし、役に立ちたいとの願いから保育園を運営しているのです。

・本園には障害児・発達障害児・医療的ケア児が在園し、他の保育園では見られない保育士たちの動きがみられます。障害児は療育センター職員がタッチし、支援計画を園でともに計画していますが、発達障害児は令和5年発達障害児支援法が施行されてから一般に知られるようになりましたが、療育センターや保育所では支援計画は作成されておりません。医療的ケア児は2021年に支援法ができたばかりで、保育所では入所を受け入れるところはほとんどありません。文部科学省の22年の調査で発達障害児は小学校でクラスの10.4%、中学校でクラスの5.6%が発達障害児の可能性があると公表されています。このような状況のなかで、本園は発達障害児・医療的ケア児を預かり、ともに児童保育を行っているのは、横浜市内でも極めて少なく、その先進的な取り組みは本園の特徴となっています。

⑤

評価実施期間	2022年10月1日（契約日）～ 2023年1月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥ 総評

特長や今後期待される点

◇特に評価の高い点

1. 医療的ケア児の受け入れ 発達障害児の支援計画

- ・障害児は療育センターのアドバイスで個別支援計画が作成され、職員が1人ついて保育しています。
- ・発達障害児は療育センターの公的なサポートは受けられませんが、本園では療育センターのアドバイスで「個別支援日誌」で毎日の動向が記録されています。運動会を前にした練習で、練習の輪に入れない、いくつかの演目の練習で途中で疲れたと休む、途中で大声で泣き始めたり、急に座り込んで砂遊びをしたりする児童に、保育士の戸惑いと熱心な支援が綴られています。
- ・医療的ケア児は2021年に「保育所等における医療的ケア児及びその家族に対する法律」が施行され、横浜市でも受け入れの保育所を探していたものです。本園では2022年4月から3歳児を受け入れています。毎日の体調・インスリンポンプ画面の定期確認と低血糖時の対応を園が行うもので、家庭と園との綿密な連携が必要とされます。本来は看護師の常駐が必要ですが、本園では血糖値管理だけであり、緊急の時は保護者が駆けつけてくれる約束があり、園長は受け入れに踏み切りました。保育でのスケジュールは7時30分に登園し、インスリンポンプの動作確認を一緒に行い、受け入れます。9時におやつ前の血糖値確認、散歩前にまた確認し、血糖値が低ければアラームが作動するので、ブドウ糖を与える。激しい運動の後は血糖値がさがるので、アラームがなります。給食は他児と同じものを食べます。食欲がない場合は家庭に即連絡です。血糖値確認は20分ごとに行うので職員は1人（加配）ついております。通常血糖値は80～100ですが、アラームは80以下に下がった場合鳴ります。初めての経験ですが、デイリープログラムに組み込まれ、保育士たちの懸命な支援が続いています。
- ・保育士はそれぞれ研修で得た子どもの特性を理解し、尊重しながら他児とも過ごせるように配慮しており、通常の保育で生活しています。

2. 事故を未然に防ぐアイデア 「ヒヤリハット通信」

- ・ケガなど事故を未然に防ぐ方法として職員の感覚を敏感にするために「ヒヤリハット通信」を0歳と1歳児のいる分園と2、3、4、5歳児のいる本園とに分かれて年2回ずつ写真付きで、ヒヤリハットのケースとそれに対する職員のとるべき未然の対応を掲載しています。乳児のいる分園で室内、庭、散歩など起こりそうなケース・木や植え込みによる死亡事故・固定遊具からの転落など20事例を取り上げて、その対策を述べています。

・幼児のいる本園で起こりうる、門扉・歯ブラシ・窓・大人トイレ・玄関引き戸・階段などで起きるヒヤリとする、ひょっとすると大きなケガになるかもしれない事例を、写真や絵で10ケースあげ、職員が同じケースの場合と同じことが起こらないように知恵を出し合って、工夫して対策を説明しています。安全な事故のない保育園にしたいという願いからの優れた企画です。各3号まで出る予定です。

・このヒヤリハットの報告はデイリープログラムに組み込まれ、あった場合は毎日でも記録し、毎週集計されています。

【期待される事項】

・本園には保育方針や園生活を一般へ情報提供するホームページがありません。保護者は若い世代です、利用候補者も若い世代です。活字よりもスマホなどで情報集めが常態化している現代、ホームページ等の開設が求められます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審し「すべては子どもたちのために」という合言葉で各項目ひとつひとつを振り返ることにより、日々の保育や業務の意義、目的について多くのことに気付くことができました。色々な話をする中で今日、これからの課題を明確にすることができたのでとてもいい機会となりました。

また、評価委員の方に良い評価をいただいた部分は職員にとって大きな励みになり、私たちの自信にも繋がりました。

保護者の皆様にはお忙しい中アンケートにご回答いただきありがとうございました。

今後とも第三者評価の取り組みを活かし、職員一同、保護者の皆様とともに子どもたちの育ちを喜びあいながら子どもの最善の利益を守るため、保育の質を高めていけるように日々取り組んでいきたいと思っております。

認可保育所どうぞのひろば
園長 池田愛美

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり